

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームぼらん千厩 シグナレス

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900116		
法人名	特定非営利活動法人 なごみ		
事業所名	グループホームぼらん千厩 シグナレス		
所在地	岩手県一関市千厩町千厩字前田229		
自己評価作成日	令和元年10月26日	評価結果市町村受理日	令和2年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	令和元年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所からまもなく5年になりますが、併設しているシグナル棟と協力、連携し、「入居者が主人公」という考えのもと、入居者様が一日一日を大切に、安心して過ごせるようプライバシーと尊厳を守りながら、質の高いサービスの提供に努めています。地域との関わり合いを重視し、ボランティアとの交流も大切にしながら、常に開かれたホームであるよう努めています。代表者は職員にあった研修会への参加を促し、各々の目標にむけてキャリア形成、スキルアップの啓発を継続的に行なっています。また、育児中の女性職員に対する時間短縮や勤務内容に制限がある職員に対し、様々な条件を受け入れるための職場環境の整備と職員の意欲向上に対する支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、一関市千厩町の中心地、国道284号線から南側の高台に立地している、2ユニット(シグナル・シグナレス)グループホームである。事業所の理念は、職員の具体的行動目標にもなっており、「利用者が主人公」という支援の基本姿勢は職員全員に浸透している。利用者は、共用のホールや居室で、穏やかにゆったりと集い、また自分のペースで生活している。入居後不安定な利用者には、介護支援専門員が中心となり、管理者や職員の協力を得ながら、支援方針の統一化を図り、チームとして対応しており、介護力の高さが窺える。今後は、運営推進会議等を活用し、地域住民や関係者との協力体制や事業を充実させていくことで、地域に密着した事業所として更なる発展が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホームぼらん千厩 シグナレス

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務室内や名札の裏に明示して常に職員間で共有し、意識しながら実践に努めている。ミーティングでは、職員全員で唱和している。	シグナル及びシグナレス共に、職員が話しあって決めた介護理念を掲げ、日々の業務に当たっている。職員のネームプレートの裏面に理念を明記しており、常に確認することができる。月1回の職員ミーティング時に唱和し、意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常の挨拶をはじめ、地域の一斉清掃に参加して交流を深めている。地域のボランティアの方が定期的に踊りや歌の慰問にいらしている。	事業所付近の散歩の際には、近隣住民と気軽に挨拶を交わしている。地域との交流の一つとして、事業所敷地内に、地区住民のごみ収集箱を設置している。地域ボランティアの踊りの慰問が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成研修を受講した職員がおり、認知症の方の理解や支援の方法を地域や近隣の方々に伝えられる状態にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催している。ホームでの日常の様子や行事の取り組みなどを報告・紹介している。	運営推進会議は両ユニット合同で、共用フロアの広さからシグナルを会場として開催している。委員として、家族には毎回全員通知し、利用者も参加している。消防団員、駐在署員、近隣の方等、多忙な方々で毎回の参加は難しいが、参加率の向上を目指し、工夫していきたいとしている。	地域の役員や関係機関のメンバーに働きかけ、開催時間や事業との共催等工夫され、充実した会議運営の努力を続けて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、電話連絡だけでなく、必要時には足を運び、連携が図れるよう努めている。	運営推進会議議事録や要介護認定申請を千厩支所に出向いて届けており、その際に様々な情報を頂いている。市の集団指導会には管理者が出席し、12月には実地指導を受ける予定である。市や支所との連携は図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の手引きを職員が閲覧できるようにしている。転倒の危険性が高い方についてはご家族様に了承を得た上で一部ベッド柵を使用させて頂いているが、監視的対応にならないように気をつけている。	身体拘束廃止について、法人として指針を作成している。身体拘束廃止委員会は、管理者と安全委員が夫々のユニットで検討し、職員と運営推進会議に報告している。研修はユニット合同で開催している。ベッド柵を使用の利用者は、家族の了承を得ている。	身体拘束について内部での研修を実施しているが、今後、身体拘束、虐待、権利擁護等の外部の研修の機会を得られるよう、検討して頂きたい。

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、全体ミーティングなどを利用して、定期的に話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	姉妹ホームで利用している成年後見制度や「まもりーぶ」についての情報を収集し、利用者様が必要になった際は支援できるよう備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては事前に契約書と重要事項説明書をお渡しした上で、改めて説明している。不明な点がある場合はその場で説明し、ご理解いただいで不安なく利用できるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の日常会話などから思いや要望を傾聴し、可能な限り実践できるよう努めている。ご家族様の面会時には、要望や思いなどを話しやすい雰囲気づくりに努めている。	法人独自のアンケートでは、運営に関する意見は特になかった。毎月家族に、「今月のベストショット」写真を掲載した居室担当職員手書きの通信を送付している。面会の機会を増やしたいと考え、利用料は持参としている。週2、3人の面会があり、来訪時には居室にお茶を出し丁寧に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングには代表者も出席して意見交換の場となっている。日常的な職員の意見や提案に耳を傾け、ユニット一丸となってより良いサービスの提供に取り組んでいる。	代表者は、毎月のミーティングに参加し、現場の理解に努めている。利用者の外出支援に関しては、前日までに企画書を起案すると、同行職員の食事代が事業所負担となっている。ウッドデッキの補強、エアコンの交換、日用品の購入等は、その都度検討され、上部の承認を得て具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は働きやすい職場環境や職員個々の意欲向上に対し、そのつど支援している。職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用も全額補助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々の適性に合わせ、外部研修への積極的な参加を促している。職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用も補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する研修会などへ参加し、他施設との交流を積極的に行うことでサービスの質の向上を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から要望や不安を把握し、ホーム内の案内など丁寧に対応することで、利用開始時により安心してサービスを受けることができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時からご家族様がどのようなケアを望まれているのか、不安な点なども解消できるよう時間をかけて説明・対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議後では、代表者、管理者、入居窓口担当者が時間をかけて話し合い、必要なサービスの見極めを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ご本人の意思を尊重し、共に心の触れ合える関係を築いている。利用者様一人ひとりが役割を持って生活できるよう、有する能力に応じて声掛けして、一緒に生活しているということを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診報告の際には、日常の様子も含め報告している。また、遠方で来訪が難しいご家族様にもベストショットやメールを利用して近況報告することでつながりを保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居前から本人が大切にしてきた知人や友人との交流を促し、関係が途切れることのないように再来の声掛けを行なっている。行きつけの美容室利用、自宅周辺へのドライブ、希望時の電話支援等で関係の維持に努めている。	家族以外の面会は、親戚や近所の友人が多い。面談は、居室を主に共用ホールの一角も利用している。美容室とは、長年のお馴染み客ということで、美容師さんが送迎をしてくれている。訪問理容の利用者は、理容師と新しい馴染みの関係が出来ている。外出時は、買い物の有無にかかわらず、馴染みの商店に立ち寄っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの座席は利用者の性格や相性なども考慮して決定している。全員で参加できるレク活動や行事を行なって互いに認め合い、交流できるような環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム外でお会いした際には、声をお掛けしてお互いの近況報告を行ない、情報交換ができるよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、言動や表情から一人ひとりの意向の把握に努めている。記録に残したり、全体ミーティングなどでも職員間でお互いに意見を出し合っている。	利用者は、リラックスすると沢山話してくれるので、職員は、ゆったりとした状態での会話を心掛けている。昼食と夕食準備専任の調理員がおり、利用者との会話の時間が確保できている。意思疎通が難しい利用者とは、はい、いいえで答えられる質問をしたり、家族からも情報を得ている。利用者との係わりの中で得た事柄は職員間で共有し、介護計画作成時の貴重な情報にもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報やご本人様、ご家族様にお話をお聴きして、暮らしの把握に努めている。居室に制作物やご家族様の写真などを飾り、安定した生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック、言動や表情の観察により、身体・精神状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやミーティングで利用者様のケアについての話し合いを行なっている。必要に応じて主治医やご家族様より意見を伺い、調整しながら現状に即したケアプランを作成している。	サービス内容のモニタリングは居室担当者と介護支援専門員が行ない、モニタリング結果に基づき作成した介護計画原案を、職員がそれぞれ業務の合間に確認し、新しい介護計画を決定している。入居間もない状態が不安定で、ケアの統一が必要な対応方針については、介護支援専門員が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を生活記録に記入し、ミーティングで話し合い、見直しを行なっている。1日2回の申し送りや連絡ノートにより情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方にお住まいのご家族様や緊急時は施設にて受診対応している。また利用者様の嗜好に合った食事やおやつの提供に配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設にボランティアを受け入れ、歌や演奏、踊り等を楽しんでいただくことにより協働を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様のご要望を重視し、受診支援に努めている。また、受診対応を希望されるご家族様には、付き添いをお願いしている。	入居前のかかりつけ医を継続することとしているが、家族が同行しやすいように近くに転院された方もいる。家族同行の際には、生活や健康状態の情報を提供しており、結果は家族から報告がある。訪問診療を利用している利用者が2名いる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々利用者様の状態を観察し、変化が見られた場合は記録に残し、週1回の訪問診療時に身体の様子や経過を報告して指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された際には、お見舞いに出向くなどしてご家族様や医師、看護師と情報交換や相談を行なっている。退院後の対応については、職員間で情報を共有し、留意事項の確認や状態把握に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、看取りの指針を説明し、早い段階からご本人・ご家族様に意向を確認している。入居後もご希望を重視し、かかりつけ医と連携しながら方針を共有し、施設でできることに取り組んでいる。	過去に看取りを行なった事例はあるが、看取りを行わない方針であること、重症化の場合は、巡視を頻回に実施することを入居時に説明している。併せて施設入所の手続きも勤めている。重度化や終末期についての職員研修は実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習に参加している。また急変や事故発生時に備えてマニュアルを周知し、全体ミーティングで確認・共有している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのもと避難訓練を年2回実施している。災害発生時に備えて、非常食や持ち出し用品の確認を定期的に行なっている。情報収集には地域の防災アプリやラジオも活用している。	年2回消防署立会いの避難訓練を実施している。市のハザードマップでは危険が無いとされているが、公道から事業所への入り口は急斜面で、両ユニットとも避難経路は砂利道となっている。運営推進会議の委員と地域の方から、災害時の協力の意向を示されている。	両ユニット共に、共用ホールからスロープを利用した避難路について、改めて点検し必要な措置を講ずることが必要と考えられます。また、消防団員等の関係者や近隣住民の協力を得た避難体制の構築や暗さを体験できる夜間想定訓練の実施が望まれます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いはもちろん、声掛けする時には声の大きさや表情にも気をつけている。職員間の申し送りなどはイニシャルで呼ぶなどプライバシーを損ねないよう対応している。	カンファレンスを共用ホールで実施しているため、利用者の名前はイニシャルを使用している。歯磨きやトイレ誘導時は、耳元で話したり言葉を置き換えて、優しく声掛けしている。状態が不穏な際は、間をおいたり、居室でゆっくり話を聞いている。業務中の、利用者の連絡事項はイニシャルで行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも傾聴し、意思疎通が困難な時には選択肢によりご本人の意思を伺うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望があれば、その日の予定に取り入れられるように調整し、希望が叶えられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に合った衣服を着ていただけるように衣替えを支援している。散髪はご本人の希望や伸び具合によって訪問理容に依頼したり、馴染みの美容室に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜作りを行ない、自分たちで収穫したものを調理して召し上がっていただくことで、食欲が増進するよう提供している。食事前後のテーブル拭きのお手伝いをお願いしている。	食事は、調理専門の職員が作っている。職員は、利用者と一緒に食事しており、会話しながら、時間をかけて介助している。おやつには、ホットケーキやどら焼き等を手作りしたり、収穫したさつま芋や野菜を食材に活用している。道の駅への外出時には、ソフトクリームやフルーツジュースを嬉しそうに口にしている。お彼岸のおはぎや敬老会の祝い膳等の季節の行事食のほか、誕生日にはケーキや好物を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で栄養バランスを管理し、摂取量や水分量は総合チェック表に記入し、職員間で共有している。また、一人ひとりに合わせた食事形態で提供するよう心掛けている(刻み、分量など)。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、口腔内の清潔保持に努めている。ご自分でできる方には、自力で行えるよう声掛けや介助を行なっている。必要時には歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの残存機能や状態に考慮し、できるだけトイレでの排泄を促している。チェック表を確認しながら、間隔が空いた際は声掛けにて誘導し、必要に応じて見守り・介助等を行なっている。	トイレでの排泄を目標に、状態に応じた介助をしている。日中は、食事前後と排泄チェック表で2、3時間排泄していない利用者に声掛けしている。自立は3名、他はリハビリパンツ、パット、おむつ等を使用している。昼夜ともにオムツを使用している利用者がシグナレスに1名おり、改善に向けたケアを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や咀嚼に配慮している。自然排便を心掛けているが、便秘が続いた際は主治医の指示のもと、必要に応じて下剤服用や訪問看護による浣腸・摘便にて予防対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調やご希望に考慮しながら入浴を楽しんでいただいている。拒否があった場合には、日にち・時間を調整して対応し、清潔保持に努めている。	週2、3回入浴できており、希望に応じ毎日の入浴も可能である。異性介助は恥ずかしいと言われる利用者に配慮した介助のシフトを組んでいる。季節感を味わえる柚子湯や桜の入浴剤を活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣により、活動に参加されたり、午睡をとられたりと状況に応じた支援を心掛けている。主治医の指示のもと必要時に眠剤を服用していただく方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を保管し、いつでも確認できるようにしている。誤飲・誤薬や飲み忘れがないように職員が管理し、服用時は複数の職員で確認しながら行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様やご家族様の意向を尊重し、日々のお手伝いや趣味の時間、散歩などの外出支援を積極的に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望や体調、天候に配慮しながら散歩やドライブ等支援している。また、受診やお墓参り、遠方のご家族様より外出や外泊の申し出があれば協力しながら出掛けられるよう支援している。	散歩を含め、外出の機会が増えている。お花見、紅葉狩り、千歳夏まつり等の季節のドライブには、車椅子対応車を含めた3台の車で出かけている。事業所周辺の散歩やプランターの野菜や花の水遣りで屋外に出た際に、地域の方に声掛けされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを出納帳、金庫にて職員が管理している。ご希望・ご要望により、受診時など職員と一緒に掛付け、外食・買い物等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人より希望があった時や必要に応じて、その都度電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を廊下に展示したり、行事や日々の生活の様子を撮影した写真を掲示している。トイレは車椅子で入っても余裕がある広さになっているため、ADLが低下しても安心して生活できる作りになっている。	両ユニット共、高い天窓からの自然採光に恵まれている。ホール続きのウッドデッキでは、外気浴が楽しめる。ホールの壁面には、季節を感じる作品が掲示され、エアコン、ファンヒーター、テレビ、ソファが配置されている。テーブルや椅子は角や背もたれが丸く優しい印象である。車椅子利用者も食事時は滑らないよう肘かけや背部に座布団を固定した椅子に移動している。利用者は、職員の見守り、寄り添いを受け、夫々の居場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置したり、玄関付近にもベンチを設置して好みの場所で過ごせるよう配慮している。必要に応じて、気の合う利用者様同士で過ごせるようお席を移動するなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご本人の使い慣れたものや馴染みのものを持参していただくようあらかじめお声掛けしている。ご家族様にも入居申し込みの際には必ず施設内を案内し、ご本人が快適に生活できるイメージが持てるよう配慮している。	ベッド、収納量の多いクローゼット、洗面台が設置され、衣類や日用品はきちんと整理されている。家族の写真や色紙が飾られ、テレビを持ち込んでいる利用者もいる。掃除が行き届き、清潔な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは迷われないように表示している。また浴室内に手すりを設けたり、滑り止めマットを使用し、安全を考慮している。		